

## 平成30年度恵那南高等学校魅力化プロジェクト推進協議会

日 時	平成30年5月17日(木) 10:00~12:30
場 所	恵那市まきがね公園体育館会議室
出席者 (敬称略、委員名は50音順)	<p>(委員)</p> <p>朝倉 和仁 岐阜県恵那県事務所長  伊藤 昌輝 恵那南高等学校PTA会長  大塩 康彦 恵那市副市長  大嶋 英哉 恵那市明智振興事務所長  児玉 光弘 恵那市副教育長  小石川 浩永 (株)恵那川上屋取締役  鈴木 勝久 恵那市立明智中学校教務主任  高橋 光弘 恵那市立明智小学校長  中村 美晴 大正村浪漫亭支配人  長谷川 咲 振興防災課主事  服部 晃 岐阜女子大学教授  丸山 朝夫 明知鉄道(株)取締役専務  水草 美奈 NPO「ミニ汽笛明知線」  水野 正敏 岐阜県議会議員  安田 昭夫 恵那特別支援学校長  度会 敏彦 恵那南高等学校同窓会長</p> <p>(高校側)</p> <p>林 尚志 校長  柴 成吉 教務主任  小島 光示 魅力化事務局  鈴木 和博 教務部</p> <p>(県教育委員会)</p> <p>下野 宗紀 教育総務課課長補佐</p>
議事概要	<p>1 地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市の経営会議等で地元就職の促進について議論するが、恵那南高校の生徒はほとんどが地元で就職しており、恵那地区を担う人材を育てる大切な学校である。人生設計の考え方などを教え、生涯地元で過ごすメリットなどをさらに伝えてほしい。</li> <li>・ 平成19年の恵那南高校創立の年に、小中高が一つの学校のようにある地理的好条件を生かしたいという思いや、教員同士の交流を促進し校種間の壁をなくしたいという思いにより浪漫学園が始まった。小中高一貫の取組は全国的になく、小中高で共同して行うものをカリキュラムに入れるなどして全国に発信できるとよい。</li> <li>・ 明知鉄道は恵那南高校と関係が深く、定期代半額援助や魅力化などの効果により、昨年度、乗客数が改善された。</li> <li>・ 恵那南の生徒には地域の行事にたくさん協力してもらっている。地域と密接な連携ができています。</li> <li>・ 恵那南高校から岐阜大学地域科学部に進学した生徒の妹が、地域を活性化したいという思いで本校に入学した。こうした若者たちと共に地域をより良くしていきたい。</li> </ul>

- ・ 地域での就労については、特別支援学校の課題と重複する部分が多く、可能な限り協力し、学び合いを行ってけるとよい。

## 2 恵那南高校の教育について

- ・ 産社・総合学習発表会において、中学生の時はリーダー性がなかった生徒が立派に司会や代表発表をしていた。体育での整然とした姿も印象的であった。
- ・ 習熟度別授業の上位クラスではオールイングリッシュの授業を展開するなど、授業を見学して、自分が受けたと思うほど良い授業をしていた。
- ・ 不登校だった生徒が国立大学に進学し教員になるなど、一人一人を丁寧に育ててくれている。生徒数は減少したが、教育内容が質的に向上したとを感じる。
- ・ 学校の様子を見るとどの学年の生徒も目の色が輝いており、文化祭や体育祭も一丸となって取り組んでいるなど、仲良く、とても楽しそうに過ごしている。
- ・ 高校で給食があれば親の立場からみても魅力的だ。

## 3 総合学科の系列について

- ・ 系列を変更したことはとてもよい。総合学科や単位制というのは一般の方にはわかりづらいので、系列でアピールをした方がよい。
- ・ 観光が総合学科の系列名に入ったことは、地元で観光の担い手が少ないので、多くの観光客に対応できる人材の育成に期待している。

## 4 6次産業学習について

- ・ 1年目は3学年同カリキュラム、2年目は学年毎で段階を踏んだ形で企業側から提案する形でやってきたが、今年は生徒が自らもてなすケーキバイキング、食の文化祭のようなものを計画している。
- ・ 他県からもこの取組は注目されており、今年の3年生は1年生から本事業に携わっている今年が集大成である。今年度末、生徒がどう感じたかによって成否がわかるので、頑張っ取り組むたい。
- ・ 商品は作ったところで終了している印象もある。消費者の目線に立った商品を考えて、自分が作ったものが売れていく楽しさをもっと感じてほしい。

## 5 学校PRについて

- ・ 少子化の中、子どもの取り合いになっており、学校の魅力をどう魅力を高めていくかが重要であり、他地域からの客観的な意見も聞くとよい。
- ・ 「着ものin大正村」のイベントでも恵那南高生が生き生きと手伝いをしていた。こうした高校生の変化が一般の人に伝わっているのか、声を拾うことも大切である。
- ・ 中学で進路指導をするが、15歳で人生を決めることは難しい。「なりたい自分に出会う」というキャッチコピーはとてもよく、高校に入ってから進路を考えても遅くないことを強くアピールするとよい。
- ・ 昨年度に初めて産社・総合発表会に参加し非常によかった。中学2年生だけでなく、1年生も参加するとよい。今年4月の進路希望調査では、恵那南高校への希望が例年より多かった。今後もこうした交流の機会を生かしていきたい。
- ・ 硬式野球部があるのは恵那市内では恵那南高校だけだが知らない人が多い。実力もつき、勝ちも増えてきているのもっと知ってほしい。